

① 研究課題名：

転移性肝腫瘍に対する陽子線治療の多施設共同後ろ向き観察研究

② 研究の目的：

名古屋市立西部医療センター陽子線治療科は、兵庫県立粒子線医療センターが実施する多施設共同研究に参加しています。この研究は、今までに転移性肝腫瘍に対して陽子線治療を受けられた方の診療情報を収集・解析することにより、転移性肝腫瘍に対する陽子線治療の治療効果、有害事象等についての実態を把握し、陽子線治療がより有効な方はどのような病態の方であることを明らかにすることを目的としています。

③ 研究期間：

西暦 2019年 7月 ～ 2019年 12月 31日

④ 研究代表者及び研究実施施設一覧

研究代表者：兵庫県立粒子線医療センター 沖本智昭

研究実施施設：北海道大学大学院医学研究院連携研究センター陽子線治療医学教室、札幌
榎心会病院陽子線治療センター、南東北がん陽子線治療センター、筑波大
学附属病院・陽子線治療センター、国立がん研究センター東病院放射線治
療科、相澤病院 陽子線治療センター、静岡県立静岡がんセンター陽子線
治療科、名古屋市立西部医療センター（名古屋陽子線治療センター）、大
阪陽子線クリニック、福井県立病院陽子線がん治療センター、兵庫県立粒
子線医療センター、兵庫県立粒子線医療センター附属神戸陽子線センター、
岡山大学・津山中央病院共同運用 がん陽子線治療センター、メディポリ
ス国際陽子線治療センター

⑤ 研究の対象：

2013年2月1日から2016年12月31日までの期間に、名古屋市立西部医療セン
ターで転移性肝腫瘍発に対して陽子線治療を受けられた方

⑥ 調査項目：

- a) 陽子線治療前の情報：原疾患名、原発巣の組織型、原発巣への初回治療内容、転
移再発治療時の化学療法の有無、原発巣治療後の無再発期
間、転移巣の個数、肝機能（血液検査値）
- b) 陽子線治療の情報：治療開始時年齢、治療開始日・終了日、総線量、分割回数、照
射する腫瘍の情報（部位、最大径、個数）、照射歴の有無、陽
子線治療中止の有無
- c) 陽子線治療後の情報：早期（照射3ヶ月以内）・晚期（照射3ヶ月以上）に発現し
た有害事象、局所再発の有無、遠隔転移の有無、転帰など

⑦ 研究の方法：

研究担当医師が、研究の対象となる方の診療録より「⑥調査項目」の情報を調査し、「症例調査票」に記入します。得られた情報は、CD-R にパスワードロックして保存し、研究事務局（兵庫県粒子線医療センター）へ郵送にて提供され、集計・解析されます。